

「解答・解答例等」「出題の意図」

選抜区分	2026年度（編入学試験） 文学部 比較文化学科 （科目名：小論文）
<p>問題 I</p> <p>問1</p> <p>【解答例】まず、消費者は多くの出費をクレジットカードによって行っており、イギリス人は現在、大人一人当たり、約670ポンドの負債をクレジットカード会社に対して負っている。また人々は実際には所有していない金銭を、必要としない品物を購入するために使っている。その結果、イギリスでは1年あたり、30万トンの衣類が捨てられ、それらの大半は、ごみ処理場に移送される。</p> <p>【出題の意図】英語構文に関する知識、基礎的な英文法の力、英語の語彙力などの、英語の読解に必要な能力、および日本語の表現力を問うた。</p> <p>問2</p> <p>【解答例】人々は不要な衣服を慈善団体に寄付しがちだが、それらを全て販売することはできない。またファストファッションは急速に流行遅れになってしまい、しばしば、質が悪いため再利用もできない。人々も、中古のファストファッションを買いたくはない。以上が原因となって、莫大な量のファストファッションが最終的に捨てられ、また、慈善団体が売ることができない多くの衣服は国外に輸送され、さらなる経済問題と環境問題が引き起こされることになる。</p> <p>【出題の意図】英語構文に関する知識、基礎的な英文法の力、英語の語彙力などの、英語</p>	

の読解に必要な能力、および日本語の表現力を問うた。

問3

【解答例】有名なユーチューバーは、視聴者に1年間、一切何も購入しないよう勧めている。二人のカナダのユーチューバーは1年間、食料だけを購入するよう努力し、最初の3ヶ月間は電化製品、服、日用品を購入せずに生活するにはどうすればよいのかを学んだ。次に彼らは、散髪や外食や車の給油などのサービスの利用をやめた。

【出題の意図】英語構文に関する知識、基礎的な英文法の力、英語の語彙力などの、英語の読解に必要な能力、および日本語の表現力を問うた。

問4

【評価・解答のポイント】問題文の趣旨を踏まえた上での解答となっているか、自身の見解や意見を自分の言葉で述べているか、英語が正確に書かれているか、記述の分量が十分であるかを基準として評価した。説得力が伴う形で自身の見解を述べている解答は高く評価した。

【出題の意図】自分の意見を英語で記述させることにより、基礎的な英文法の知識、英語の語彙力、論理的思考力、発想力、文章を構成する能力を問うた。また、問題文を踏まえた上での記述を義務付けることにより、英文の読解力と、英語で記述された長文の要点を把握する能力も併せて問うた。

問題Ⅱ

問1

【出題の意図】

問題文の本旨にあたる部分の要約を求めた問題である。

【評価のポイント】：①**文章読解力**：文章全体を貫く〈近代芸術〉と〈古典〉の対比構図を見抜くのは当然のこととして、両者の特徴が際立つような、コントラストの効いた説明ができるかを見ている。また、筆者が〈近代芸術〉に批判的であるため、そのこともはっきり盛り込む必要がある。②**文章表現力**：字数が制限されているので、問題文をそのまま切り貼りするのでは間に合わず、ある程度は自分の言葉で言い直して、圧縮したり補足したりする必要もある。見聞きした事を自分の言葉に置き換えて納得する態勢ができているかが問われる。

【解答例】近代芸術は作者を神格化し、作者の意図が直接表現された初案に手を加える推敲や添削を、芸術作品の真価を損なうものとして拒む。結果、近代芸術は、作者の自我という狭い世界のなかでのみ完結し、作者の意図という一つの意味に縛られる。しかし古典は、作者の意図や自己解釈を相対化し、推敲や添削を肯定的に受け入れることで、作者個人の意図から自由に多面的に解釈され、その意味や価値は重層化・立体化して、普遍性を帯びる。(199文字)

問2

【出題の意図】一見隙が無いように見える筆者の主張に、あえて反論を試みるという問題。批判的な視点を「こじあける」くらいの能動的な知性が問われる。

【評価のポイント】①**文章読解力**：問題文で提示された主張・命題（テーゼ）をまずは正

確に理解する必要がある。②**知識の応用力**：筆者の主張を、自身の経験や知識と結びつけて理解・消化する思考回路、あるいは応用力を問うている。いわゆる「引き出し」の多さがものをいう。③**説得する力**：賛成・同意ではなく「反論」に限定したのは、ディベート的な条件下で、自分の書くことに説得力をもたせる力を見るためである。具体的には、ロジック（論理）とレトリック（修辞）の両面から自説を補強することになるだろう。④**批判的な洞察力**：「反論」といっても、筆者の主張のどの部分にどの角度から挑むかによってさまざまな可能性があり、解答例（2）で示したように、内容というよりも書き方（筆致）に焦点を当てた批判もある。「SはAである」への反論が、「SはAではない」という主張に限らないということに気づけば、解答の幅が広い問題だと分かったはず。

【解答例(1)】20世紀のヨーロッパに登場したシュールレアリスムの芸術家は、自動筆記による創作を試みた。また、偶然のハプニングをあえて迎え入れるような現代演劇や、ゾウに筆をもたせて絵を描かせるショー、AIによる作曲作画などもある。これらは、芸術作品の価値の基盤に作者の意図があるという前提自体を覆す挑発的な試みといえる。つまり、筆者のいう「病める弱き」近代芸術を乗り越えようとしている。しかし、この有意義な試みが添削を必要とするかということ、そうではない。添削は、芸術作品の完成形を想定し、それを目指して作品を練り上げていくような直線的過程をたどるが、冒頭に挙げた芸術はそもそもそのような理想・理念すら放棄していて、斬新だ。添削が生み出すはずの「古典」という概念は、理想の完成形があるはずだとする

一つの芸術観に依拠しており、その見方にそぐわないからといって「病める弱き」と切り捨てるのは、偏った批判である。(393文字)

【解答例(2)】下線部2を含む段落で筆者は、「くじけない」、「たくましさ」、「魚類」といった比喩表現を多用し、その流れのまま、近代芸術を断罪する重要な個所でも「病める弱き」と、やはり比喩的な表現を用いている。つまり、近代芸術やその推進者の身体的な軟弱さや精神的な非健全さを無根拠に暗示するような書き方をしている。筆者が近代芸術の根底にあるというロマンティズムに対して、古典主義者が用いそうな、「健全さ」という曖昧な価値観を振りかざした、論理性に欠くこき下ろし方だ。下線部の主張を「添削」する余地があるとすれば、たとえば、「添削の思想をうけ入れない芸術は、作者と作品の価値を紐付けて固定するため、作者の人格や意図の偏りに対する批判が起こると、そのまま作品全体の価値まで否定されかねない」程度の書き方が妥当だろう。これならば、作者の逮捕によって作品が惜しまれながらお蔵入りするといったありがちな事象にも合致する。(397字)

「解答・解答例等」「出題の意図」

選抜区分	2026年度（編入学試験） 文学部 比較文化学科 （科目名：面接）
<p>【出題の意図】</p> <p>質疑応答を通じて、志望動機や学習意欲、興味関心の所在、本学科への適性などを確認している。</p> <p>【評価のポイント】</p> <p>① 表現力：考えや意見を的確な言葉で秩序立てて表現できるのか。</p> <p>② 動機・意欲：本学科への適性があるのか。</p>	